令和2年度(2020年度) 松本美須々ヶ丘高等学校 自己評価表

78 長野県松本美須々ヶ丘高等学校

Ⅰ 教育目標とグランドデザイン　　評価は、A（十分）、B（おおむね十分）、C（やや不十分）、D（不十分）の4段階

学校教育目標	グランドデザイン	総合評価	次年度への課題
1 基礎的知識・技能の習得及び健康・体力の増進 2 自主・自律の精神及び豊かな情操・知性の育成 3 地域との連携による幅広い人間性の涵養 4 民主的で平和な国家・社会を形成する主権者の育成	地域の教育力を生かした多様な学びを実現 「人とつながる、地域とつながる、未来とつながる」	B	引き続き課題となっていた主体的・意欲的に学び、取り組む姿勢の育成については、予定していたフィールドワーク等は、臨時休業や活動制限があったものの、年度末には課題発表会を行うことができた。ほかにも制限された諸活動が多かったが、内容等を工夫して実現できたものもあった。この1年で蓄積できたスキルを来年度にも活用していく。

松本美須々ヶ丘高等学校 「3つの方針」

目指す学校像　地域の教育力を活用した多様な学びを展開し、地域とともに愛され続け、発展していく学校

DP：生徒育成方針　グローバル化が進展する社会の中で自分の可能性を追求しながら、地域社会を支え、未来を創造できる生徒を育てます。
CP：教育課程編成・実施方針　地域の教育力を活用し、多様な学びを取り入れた教育課程を編成・実施します。
AP：生徒募集方針　基本的生活習慣が身についており、多様な学びや体験活動に意欲を持って取り組む生徒を待っています。

令和2年度(2020年度) 重点目標 （平成30年度～令和4年度 中期目標）

(1) 「大学入学共通テスト」に対応する丁寧な教科指導と進路指導体制の充実により、それぞれの生徒の進路実現を保証する。
(2) 学習活動・課外活動・部活動など多くの場面で、課題を発見し、その解決のために生徒自らが目標を設定し、主体的・意欲的に学び、取り組む姿勢を育成する。
(3) 広く地域や国際社会に目を向けさせ、校外でも積極的に活動することで、社会性やコミュニケーション能力を高めさせるとともに、地域の期待に応える「地域の中の学校」づくりを進める。
(4) 必要な学習環境の整備を行い、積極的に情報を発信することで、家庭との連携を図り、複雑化する社会・家庭環境に柔軟に対応できる安心安全な（体罰やいじめなどのない）学校づくりを進める。
(5) 「言語活動」を充実させ、的確な言葉を用いて、論理的かつ自由に思考し表現しながら、異なる他者や多様な立場を理解できる多角的な視野と品格を育む。
(6) 新型コロナウイルス感染症対策による臨時休業を踏まえ、生徒の学習面、生活面、精神面の状況を把握し、家庭での学習を支援できるよう、ICT機器を活用した学習支援方法の確立に努め、必要に応じて助言を行うなど、臨時休業等が生徒の不利益とならないよう、そのケアに努める。

Ⅱ 今年度重点目標（部署別）　　評価は、A（十分）、B（おおむね十分）、C（やや不十分）、D（不十分）の4段階

部	中期目標	評価項目（重点目標）	評価の観点（具体的な取り組み）	項目	自己評価	成果と課題（最終評価）	向上策・改善策
教務	(1)(2)(3)(4)(6)	①授業や諸行事、会議等が円滑に行われるように努めると共に、それに伴う諸問題の調整を行う。	・諸行事の計画は適切であったか。 ・公開授業、体験入学、webページの更新、中学校訪問、連絡メール配信などが効果的に行われたか。	①	B	①年度後半は、臨時休業は無く、天候不良で中止した強歩大会を除き、制約は多い中ではあるが、各署で連携し、予定していた行事は行うことができた。ただし全校が集合しての行事は実施は難しく、今後に向けては行事の在り方等を検討していく必要がある。学校生活の様子や部活動での活躍等、生徒がいきいきと活動する様子は、ホームページで紹介できた。	①行事の実施について、たとえば今後拡充されるICT機器等を活用した、リモート実施をはじめ、あらゆる可能性を探っていく。またホームページは多くの閲覧者がいると思われるので、引き続き、活気あふれる本校の様子を配信していく。
		②関係各署と密に連絡を取り合う。	・校内研修の充実を図れたか。 ・会議の効率化が図れたか。	②	B	②多くの授業で電子黒板が使用され、Google Classroomやclassiなどが活用されている。一斉研修の機会の確保は難しかったが、互いに活用方法を研究しながら取り組んでいるところである。	②会議の効率化は、会議の回数を減らすなど、例年とは違う取り組みも試みた。検証はこれからの部分もあるが、さらなる効率化に向けた取り組みを行うことで働き方改革にもつなげていく。
		③今年度以降の様々な改定による諸課題に迅速に対応するよう努める。	・日課変更3年目にあたり、十分な検証が行えたか。	③	A	③日課については、今年度、総合的な探究の時間での学びが深まることを目指し、2時間連続して行えるよう、一部を変更したが、大きな混乱は無く、55分授業は定着したものと考える。	③新学習指導要領の実施が間近に迫り、これまでの成果と課題を念頭に、今後の日課についての検討を進める。
		④安心して通える学校づくりに努める。	・防災計画を迅速に立案し、それに基づく安全管理が適切に行われたか。	④	A	④臨時休校等で訓練日程等に変更はあったものの、必要な体制は整えられ、適切に行うことができた。	④来年度も安全管理が効果的に行われるよう取り組む。
		⑤新型コロナウイルス感染症対策に伴う休業への対応、休業明けの体制づくりを各署と連携して進めていく。	・生徒に不利益とならないよう、関係各署と連携し、行事予定の再構築等、計画・実行できたか。	⑤	A	⑤臨時休業による授業進度の遅れは、早期に解決でき、影響は最小限に抑えられた。できる限りの対応はできた。コロナ禍において今後も遠隔授業等に関する研究は継続していく。	⑤新型コロナウイルス感染症対策は、今後も継続していく必要がある。スピード感を持った対応も求められるので、常に最善の対応ができるよう検討を重ねていく。
進路学習指導	(1)(2)	①生徒が自分の能力や適性を的確に把握して、主体的に自らの生き方を考えて進路を選択できるように、さまざまな機会をとらえて計画的、組織的な指導をする。	・個人面談、LHR、学年集会、進路の日、などの企画運営を通して、生徒が自分について考え、進路意識を高め、進路の選択をする機会や資料を与えることができたか。 ・各学年の進路指導計画を遂行することができたか。	①	B	コロナの影響で，各学年の進路指導計画を大幅に変更せざるを得ない状況があったが、集会や行事に代わる手段をそのたび考えて、生徒の進路意識を高めたり進路選択の機会や資料を与えた。	コロナの終息を待って学年全体での集会や行事も計画し直し、より効率的な生徒への働きかけができるよう考える。
	(1)(6)	②予習→授業→復習という学習習慣の定着を図る。 Classiの活用方法を研究し活用を促進することで、生徒の家庭での学習の補助をする。	・平日の家庭学習時間1時間30分を達成できたか。 ・Classiを利用した動画配信を生徒に活用させることができたか。	②	B	休校期間中にはYouTubeやClassiを活用して動画配信をしたり課題を送ったりすることができた。 家庭学習時間の把握や予習復習の取り組み状況を把握する取り組みが不十分だった。	動画の配信は必要に応じていつでも可能なように準備をしていく。 家庭学習についての把握と指導にとりくむ。
	(1)	③生徒の進路選択にかかわる情報や学習成績と模擬試験の結果などを職員間で共有し、教科や学年に助言と協力を求める。	・模擬試験の結果を職員間で共有し、教科や学年からの助言を生徒にフィードバックすることができたか。	③	A	模擬試験の結果を職員間で共有することができ、教科で振り返りや対策などにも取り組んだ。	職員会、学年会、教科会などで、生徒の情報を共有する機会をできるだけ多く持つ。
	(1)(4)(6)	④「大学入試共通テスト」や、臨時休校による進路に関するスケジュールの変更などの情報と資料を収集し、生徒や保護者及び職員に正確に発信するとともに、生徒が不利になることがないように適切な対応をする。	・各学年の学年通信で情報を発信したか。 ・必要に応じて職員会で職員に連絡したりマメールを使った発信をしたりしたか。	④	A	定期的に学年通信を発行して、学年にあった進路情報の提供ができた。特に、就職や進学に関するコロナによる変更や情報はこまめに発信するように努めた。	さまざまな情報形態の中から取捨選択して、生徒に最もわかりやすく伝わりやすい形で提供するように努力する。

部	中期目標	評価項目（重点目標）	評価の観点（具体的な取り組み）	項目	自己評価	成果と課題（最終評価）	向上策・改善策
生活指導	(3) (4)	①生徒に挨拶、交通マナーの徹底など基本的な生活習慣を確立させる。	①社会や学校のルールを確認させ、遵守させる指導ができたか。	①	B	感染症拡大のため交通安全教室を学年・全校でまとまって行うことはできなかった。随時HRで注意を促すとともに、松本市、警察署と連携して、下校時の立ち番指導を行った。	来年度スケアードストレイドの実施を申し込んでいる。県の保健厚生課が実施する支援センターによる自転車交通安全教室についても、関係する部署と実施の方向で検討していきたい。
		②生徒とのコミュニケーションや家庭との連携を密にして信頼関係を築く。	②HR指導、頭髪指導、立ち番指導、巡視指導、挨拶運動などを実施できたか。また、匿名のアンケートを用いて意見に耳を傾け、的確に対応できたか。	②	B	登校時の立ち番指導、ステッカー点検、校内巡視を行い、現金盗難、自転車事故は昨年度より減少した。頭髪指導については、担任任せにせず、職員全体で当たれる指導体制について提案する。	来年度も全教職員の協力を得て、今年度と同じ指導体制を継続して行ければと考えています。頭髪指導については、指導の流れを明確にしていく。
		③職員がアンテナを高くして、生徒の小さな変化にも気づき、初期対応を適切に行い、いじめや体罰のない学校づくりを進める。	③各学年会をはじめ、関係機関と緊密に情報共有し指導できたか。	③	B	友人関係のもつれから人間関係がこじれたという相談があり、いじめ対策委員会と学年担任と連携して取り組んだ結果、解決に至った。いじめやSNS関係のトラブルなど、今まで以上にアンテナを高くし、小さな案件、情報でもすぐに関係機関と連携し、対応をしていく必要性がある。	いじめ対策委員会、生徒相談、生徒支援委員会、情報係と協力して生徒の変化に気づき初期対応をすばやくしていく。
生徒会指導	(2) (3) (4) (5) (6)	①他者と協力して諸問題を解決しようとする主体的、実践的な姿勢を育む。	・主体的、実践的に取り組ませることができたか。	①	A	コロナの影響で生徒会行事はいくつか中止になったが、双蝶祭やクラスマッチなどの行事や、生徒会が関わる活動において、生徒中心の主体的・実践的な取り組みを深めることができた。	引き続き、これまでの活動も生かしながら新しい発想を引き出せるよう支援していく。
		②集団や社会の一員としての自覚を深め、保護者・地域との連携を図る。	・保護者・地域との積極的な連携が図れたか。	②	B	双蝶祭の一般公開がなくなり、また、福祉施設でのボランティア活動や盲学校との交流などもできず、直接地域の方と連携することはできなかったが、「豪雨災害義援金」の募金活動を積極的に行い、例年以上の募金を集めることができた。コロナ禍でも可能な校外ゴミ拾いの活動へも積極的に取り組めた。	ボランティア活動が可能な状況になれば積極的に活動させたい。一方、広く社会へと目を向け、コロナウイルス感染症対策をしながら自らが主体的に興味関心を持って関わることのできる活動の可能性を模索していく。
		③健全で自由で活発な生徒会活動や部活動を推進する。	・健全で自由で活発な生徒会活動や部活動を実現できたか。	③	A	6月まで、生徒会活動も部活動もできなかったが、休業明けからはできる範囲で活発な活動を推進することができた。	コロナの感染防止対策をしながら、活発な活動のためのヒントとなるようなアイディアを提供するとともに、生徒との協働を図る。
		④相互に尊重し、友情を深めると共に、規律を遵守し共同生活の発展に尽くす姿勢を涵養する。	・多角的視野を持ち、他者を尊重することのできる人材を育成できたか。	④	B	日頃近しい関係ではない生徒とコミュニケーションを取ることが得意でない生徒や、自らが気づき行動することに慣れていない生徒もおり、一部の役員の活動になってしまった部分があった。新生徒会では、生徒会活動を活発にするため、Google Classroomの活用等、役員間の情報共有を積極的に行う機会を増やす工夫を進めている。	地域や未知なる分野へ興味関心を持てるようなきっかけづくりを継続して行い、各自が得た情報や考えたことを共有する場を多く設定し、視野を広げ他者を尊重する姿勢を今まで以上に養えるように工夫を図りたい。
		⑤新型コロナウイルス感染症対策により生徒会や部活動活動が制限され、生徒会行事の延期、中止等の見直しを検討せざるを得ない状況において、少しでも生徒が前向きに取り組めるよう支援していく。	・新しい生徒会活動の構築に向け、適切な支援ができたか。	⑤	A	当初は双蝶祭の開催も危ぶまれたが、準備の時間が少ない中で、顧問の前で新しい形での文化祭の企画をプレゼンテーションさせたり、新しい企画について多くのやりとりをするなどして生徒達が考えさせる場面を意識的に設定した。日程は短縮され、一般公開なしと例年とは異なる形であったが、生徒は前向きに取り組み、双蝶祭を成功させることができた。 新体制になり、他校との交流ができる研修会等に積極的に参加し、その報告のプレゼンテーションを行い、役員間で他校の様子等を共有する機会を増やしている。	これまでの活動が生かせないことも多いので、熟議の場を設け、役員が自ら考え、意見を述べる機会を作ったり、他校の様子や学校以外での取り組みなどの情報を提供したりすることで、コロナウイルスの感染防止対策をしながらの新しい生徒会活動の構築を進めたい。今後、役員による双蝶祭ミーティングを行い、新しい文化祭の形が構築できるよう支援していきたい。
情報処理	(4) (6)	①使いやすさとセキュリティの高さという相反する目的を達成するため常時ネットワークの運用管理に心を配る。	・グループウエア更新の為の新しい知識を理解習得し、応用できたか。	①	B	校内にICT普及の為のワーキンググループが立ち上がり、これに参加した。Google Classroomの導入マニュアルを作成して、校内の先生方に配布したほか、クラス、学年、学校全体などのグループを作り利用可能な生徒は全員参加出来る形になった。校内で教員用のタブレットが5台配備予定であるので、今後、少しでも各教員の1人1台PCを教室に持参しなくてすむように出来ると良い。今後ますます、Web出願やZoom等での遠隔面接の機会が増えてくると思われるので、Webカメラを配備すると良いかも知れない。また、次年度より校務支援システムの導入がなされる予定であるので対応してゆきたい。	コロナウイルス感染症の影響もあって、今年度の教育課程研究会はなくなり、例年研究会で与えられる校内研修の課題もないため、例年の様な伝達講習やセキュリティ講習は行っていない。かわりに校内ワーキンググループと協働して校内研修を行い、校内のかなりの数の教員が何らかの形でICTを使えるようになりつつある。今後も不定期でも年1～2回は教員向けの伝達講習などを行いGoogle Classroom等の利用方法を徐々に広げ普及を促してゆきたい。
		②今年度よりG Suite for Education の導入や県内の内部事務システム等の関連のグループウエアが更新の予定であるので、その対応をする。 先生方への周知および、連携をとり、さらなる校内のICT化に向けて研究を行う。	・年1回程度を目標に職員向けの校内セキュリティ講習や、新システム導入講習等を実施し、セキュリティ意識・技術の向上や、新システム稼働に向けて技能の向上をはかる。	②	B		
清美	(2) (4)	①清美委員会と協力し、ゴミの分別・可燃ゴミの削減のために生徒自らが主体的・意欲的に取り組む姿勢を育成する。	・資源ゴミの分別徹底により、可燃ゴミの削減ができたか。	①	B	清美委員会が主体となって年間を通じてゴミの分別徹底の喚起を行うことができた。また、ごみ当番や外掃等、生徒自らが主体的・意欲的に取り組むことができた。	部室のごみを捨てる時間が、ごみ収集時間ギリギリになってしまう。清掃分担区や部員等と協力し合って、時間内にごみを捨てるよう指導したい。
		②職員・生徒の清掃に対する意識を高め、清潔で気持ちのよい学習環境を整えられるよう、適切な清掃活動を計画する。	・ゴミ回収、大掃除、ワックスがけ、カーテン交換などの清掃計画は適切であったか。 ・校舎内外の清掃はきちんと行われていたか。	②	B	清掃計画は年間を通じて計画通り遂行できた。今年度は特に清掃用具庫点検に力を入れ、清掃用具の整備をすることができた。また、学期末にはごみ収集日を臨時で設け、学校行事に支障がないよう計画することができた。 敷地外の落ち葉について、外部から指摘があったので、次年度検討していきたい。	ゴミ収集の日程、ワックスがけの時期については次年度以降も教務部と相談の上計画したい。 学校周辺の駐車場の落ち葉を片付けて欲しいとの要望があった。清掃分担に外掃を追加する等の対策を検討したい。 清掃点検は、委員のみでは無理である。各清掃分担区の気付いたところで対応していただきたい。
図書視聴覚	(2) (4) (6)	①生徒の主体的、意欲的な学びに役立つ図書館の蔵書や視聴覚教材・機器等を部で検討し、備える。	・生徒の主体的、意欲的な学びを支援する教材・機器などを備えることができたか。	①	B	電子黒板を活用した授業が昨年同様できるようになった。しかし機器トラブルが生じる時があり対処に時間がかかった。探究学習・進路指導等に対応した資料を積極的に購入し生徒の学習支援につなげた。	機器トラブルは意見を募り業者に修理点検を行う。また部でもトラブルシューティングのページを設ける。 引き続き蔵書の充実に努める。
		②ICT機器導入により授業におけるICT機器活用方法の研究を進める。	・授業におけるICT機器活用に関する研修に参加する等、研究を進めることができたか。	②	B	ロイロノートやZOOM等の使い方について職員向けに研修を実施した。活用の度合いについては今後の検討課題とする。	公開授業参加や研修を行い職員に情報を発信する。
		③ICT機器を活用した学習支援が円滑に進むよう関係部署と連携する。	・ICT機器を活用した学習支援が円滑に進むよう関係部署と連携できたか。	③	B	遠隔学習ワーキングチームと連携して支援の方法を検討した。	休校などになったときどのような場面で連携できるか今後研究し情報共有していく。

部	中期目標	評価項目（重点目標）	評価の観点（具体的な取り組み）	項目	自己評価	成果と課題（最終評価）	向上策・改善策
保健教育相談	(2) (4) (6)	①生徒が様々な活動に、主体的・意欲的に取り組むために、生徒の心身の健康を維持できるよう、支援体制を整える。	・生徒の心身の健康を維持するために、生徒の状況を把握し、情報を共有し、チーム支援ができたか。	①	B	学年会・職員会で生徒の状況について、情報共有することができた。また、HR担任となるべく連絡を取り合い、担任が一人で抱え込むことのないよう支援できるよう努力した。	情報共有ができたところで、さらにどうしていけばよいのか、対策を考えていく必要がある。ケース会議などを開き、対策を検討する場を設定していきたい。
		②安心安全な学校づくりのために、早期に生徒の状況を把握し、家庭や外部機関とも連携していく。	・問題を抱えている生徒の悩みに寄り添い、家庭や外部機関と連携し、支援につなげることができたか。	②	B	悩みを抱えている生徒や保護者については、カウンセリングにつなげることができた。また、カウンセラーの助言で、必要に応じ医療機関への受診をすすめるなど、外部機関と連携することができた。	心の問題はなかなか難しい部分があり、理解してあげることはできても、解決に結びつけていくことが困難であることが多い。係としてさらに研鑽を積み、対応できるようにしていきたい。
		③新型コロナウイルス感染症対策として、衛生面の管理をしっかりと行い、校内での感染予防に努める。	・新型コロナウイルス感染症対策として、衛生面の管理をしっかりと行うことができたか。	③	A	新型コロナウイルス感染症対策として、消毒液の設置、教室の換気の方法の紹介など具体的な対策、マスク着用の呼びかけなど、感染予防に努めることができた。	松本地域でも感染が広がりつつあり、「馴れ」ることなく、常に緊張感をもって、引き続き感染予防に努めたい。
渉外	(3) (4) (6)	①地区PTA懇談会に関すること ・参加者を増やす工夫及び働きかけをする。 ・保護者の意見を吸い上げ職員に伝達する。 ・地区の合意を得ながら合併を進める。	・地区PTAにおいて、参加率は向上したか。 ・地区の合併の検討は充分だったか。	①	－	新型コロナウイルス感染症拡大のため、今年度の地区PTA懇談会は未実施である。参集しての懇談会開催の是非の判断が難しく、PTA会員への周知が充分ではなかった。今後資料配付と意見集約を行う予定である。	総会も同様であるが、今回のような感染症対策として、オンラインによる会合の可能性も研究しなければならない。
		②学校と保護者・同窓会と連携を図り、PTA活動の企画・運営を行なう。	・保護者の意見や要望について、関係部署での検討を依頼し、学校運営に役立てることができたか。	②	B	新型コロナウイルス感染症拡大のため、充分な企画運営ができない状態であるが、PTA総会での議決等必要最小限の運営は行えた。	来年度の活動の準備をすると同時に、非常時のPTA活動のあり方を研究したい。
		③PTA総会・評議員会・地区PTAとも、新型コロナウイルス感染防止のため参集が難しい場合は、速やかに代替の措置を立案し、会員に周知する。	・新型コロナウイルス感染防止のため参集できなかった会合の代替措置は適切であったか。	③	B	PTA総会は参集せず「書面表決」によって実施することができた。総会に先立っての評議員会は行わず役員会で総会の議案を審議するにとどめた。 地区PTAについては今後代替措置を行う予定である。	「書面表決」での意見集約の方策と、他の代替措置はなかったか、今後検討の余地がある。
総合	(1) (2) (3) (5)	①各教科・科目、特別活動等で学習した知識や技能を総合的に活用し深化させる。	・様々な学習活動を通して生徒が社会とのつながりや生き方について考える機会になったか。	①	B	個人研究やグループ研究を通じて、それぞれの興味関心のもとに、社会的事象について深く学ぶ機会を得ることができた。	新型コロナウィルス感染症の影響により、1学期に十分な探究の時間を取ることができず、計画に大きな変更が生じてしまった。来年度は、年間を通じた計画のもとに学習を進めさせたい。
		②学校生活や地域社会の中から、自ら課題を見つけ解決する能力を育成する。	・外部との連携による様々な学習活動を取り入れることができたか。	②	B	新型コロナウィルス感染症により、生徒が校外に出る機会は限られてしまったが、その中でもフィールドワークを企画することができた。また、信州大学の学生に支援を依頼し、外部との連携の機会となったことが良かった。	新型コロナウィルス感染症の影響により外部機関との連携には大きな障壁が生じてしまった。来年度は、感染症対策を十分に施した上で、積極的に外部機関との連携をはかっていきたい。
		③主体的かつ探究的に学ぼうとする意欲や態度を育成する。	・生徒が主体となった探究的な学びを充実させることができたか。	③	A	個人研究やグループ研究では、教員があくまでも研究の補助的役割に徹することで、生徒が主体となって探究的な学びを推進することができた。	生徒主体でありながらさらに深い学びに導いていける方法論のさらなる研究が必要である。
		④グループワーク等の協働を通じてコミュニーケーション能力を育むとともに、プレゼンテーション等を通じて表現力を身につけさせる。	・発表会等の表現活動を発揮する機会を設けることができたか。	④	B	校内での課題研究発表会と、キッセイ文化ホールを使用してのMISUZU探究フェスタを企画することができた。生徒たちはICT機器を活用して、表現活動をすることができた。	生徒のプレゼンテーション能力には、個人により大きな差がある。生徒の表現活動の機会を多く設け、その能力さらに伸ばしていける方法論をさらに研究する必要がある。

学年	中期目標	評価項目（重点目標）	評価の観点	項目	自己評価	成果と課題（最終評価）	向上策・改善策
1学年	(1) (4) (5) (6)	①基本的な生活習慣を確立し、家庭学習も含め継続的な学習を身につけるよう指導する。	・手帳等を利用し、計画性を持った生活スタイルを立て、充実した学習活動ができるよう指導できたか。	①	B	学年通信では日々の日課や行事の確認、定期考査情報、進路情報を満載にして提供した。定期考査終了時には「テスト振り返りシート」を配布し自らの学習結果を見つめ直す作業を行う中で継続性のある学習活動を促せた。手帳については極力活用するように指導したが全員が活用するまでには至らなかった。	生活習慣の中でスマートフォンの活用の比重が大きい中、手帳の活用の利便性、有効性を伝える必要がある。教員側にもその活用には温度差もあり、来年度に向けて更なる検討が必要である。
		②入学直後に長い休校生活が続いたが、生徒が安心して学校生活を送り、より良い人間関係を築けるよう丁寧に対応する。	・生徒の状態を把握するための個人及び保護者との面談が実施できたか。	②	B	休校後はもちろん、考査ごと、必要におうじて面談を行い生徒の実態の把握ができた。学年全体で心身の不調等で欠席が増加傾向にある生徒もおり、保護者との連絡を密にして情報交換ができた。今後学年末に向けて更に継続していきたい。	生徒の実態を把握し、生徒相談室、支援委員会との連携を密にしながら継続的進めていきたい。今後も欠席数や学校の様子等、保護者との連絡を密に行う対応をしていきたい。
		③探究型学習の内容を計画性を持って進め、2年時の研修旅行へと繋げていく。	・「総合的な探究の時間」を有効に活用できたか。	③	B	テキスト「探究ナビ」をベースにして、プリントの配布、電子黒板を活用した動画鑑賞など、充実した展開ができた。グループワークの「テーマ設定」も比較的取り組みやすいものにして、より意欲的に調べ学習を行えるよう環境にした。資料の収集は生徒個人のスマートフォン等の端末に頼る部分があり、タブレットの追加配備やWi-Fi環境の充実が問題である。	生徒は協力して調べ学習を進めている。アンケートも校内での実施がほとんどで、積極的に校外へ出ていき情報収集するような姿勢がほしいところである。情報収集も図書館よりもネットから得る事が多いことから来年時に向けてネット環境を整えていくとこが急務である。
		④臨時休校期間で受けた学習面,生活面の影響を改善するために、個々の生徒に応じ支援・補充を行う。	・休校期間中の連絡メールや学年・クラス通信、授業動画配信などを計画性を持って実施できたか。	④	B	入学後からの休校では生徒及び保護者には連絡メールで、また各担任の判断で生徒個々との情報交換を行えた。授業動画配信やテキスト発送などは教科担当の協力を得ながら、計画的ではなかったもののできる限りのことは行えた。	緊急時下の長期休校においては「リモートのよる出席確認」は確実にできるように準備をしたい。授業動画配信やテキストなどはその状況に応じての対応となるが、学習指導ワーキングチームとの連携を密にして進めていきたい。
2学年	(1) (4) (5) (6)	①生徒が安心して学校生活を送り、より良い人間関係を築き安定した状態で学習に打ち込めるようにする。	・各生徒の身体面・精神面の状況把握ができるような個人面談が実施できたか。	①	B	・コロナ禍の中で健康チェックを行い、精神面でも不安にならないように気を配りながら、個人面談も機会を設けて実施した。また、欠席日数が増加傾向にある生徒への対応も入念に行った。	・地道で継続的な指導を心掛け、コロナに振り回されずに、計画的な学習とゆとりを持った生活ができるように指導していきたい。 ・長期欠席者を減らすためにも早めの面談や情報の共有をはかり努力したい。
		②入試改革に向け各自が積極的かつ詳細にわたる進路選択を行えるようにする。	・生徒の進路希望について相談にのり、適切な情報を提供できたか。	②	B	・大学入学共通テストや入試情報が思うように入手できず、新型コロナウイルス感染症拡大の影響からオープンキャンパスの参加も見送り、苦慮している。 ・生徒は進路希望の実現に向けて意欲的である。志望理由書の講演と実践は有効であった。	・生徒の進路意識をさまざまな角度から向上するように検討していきたい。
		③探究型学習の内容を計画性を持って進め、充実した研修旅行へと繋げていく。	・「総合的な探究の時間」を有効に活用できたか。	③	B	・総合係を中心に計画的に探究型学習を実践した。個々研究テーマが異なるので、サポート体制の確立が課題で、特に集団になじめず苦手な生徒への支援が問題である。 ・コロナ禍ではあったが、充実した研修旅行ができた。	主体的な学習活動を身につけるためにも探究型学習は有効だろう。意欲的な調べ学習ができるように継続して支援したい。
		④臨時休校期間で受けた学習面,生活面の影響を改善するために、個々の生徒に応じ支援・補充を行う。	・休校期間中の連絡メールや学年通信、授業の動画配信など、計画的に実施できたか。	④	B	・休校中は進路学習指導部が中心となり学年進路通信を出し、計画的に学習できるようにアドバイスをした。各教科単位で授業の動画配信やオンライン授業を試みながら生徒の支援をした。	・予想がつかない先行きに対して、動揺することなく、継続した学習ができるようにコミュニケーションツールを改めて整備しておきたい。
3学年	(1) (2) (4) (5) (6)	①大学入試共通テストがコロナウイルスでどのように影響を受けるのかを敏感に察知し対応出来るようにする。	・大学入試をはじめ進路情報について共有出来たか。	①	B	刻々と変化する状況下で情報共有はできていた。大学入学共通テスト初年度に向け、準備をしながら進めてきたが、感染症の拡大や台風等自然災害の影響もあり、多忙な三年間だった。	初年度のデータを分析し良い方向に持って行けるようにして欲しい。
		②それぞれの生徒の進路希望を把握し、生徒・保護者に進路情報を提供しながら、学年全体で進路実現に向けて支援していく。	・生徒個々の進路希望について保護者とも相談しながら学年全体で対応出来たか。	②	B	大学入学共通テスト初年度と言うこともあり不安視する生徒が、一般入試から早めに進路が決定する推薦入試へに流れた傾向が見られた。早めに進路が決まった生徒への学力保障等のあり方についても入試制度改革とともに見直していく必要を感じた。	入試制度が大きく変わった今年度の経験を、校内で共有し、次年度に引き継いでいく。
		③夏季休業が休校の影響をどのぐらい受けるのか分からないが、生徒の学習環境についてはエアコンも設置済みなので有効に活用して進学補習等も実施できるようにする。	・生徒の学習環境について不利益がないように対応出来たか。	③	B	学習環境についてはエアコンの設置で各教室で居残り勉強する生徒が多くいた事は良かったのではないか。学年末考査後の特編については多くの意見が出るところだと思われるので次年度に向け早急に検討が必要。	特編については色々なやり方があると思うので早めに取りかかって準備を進めた方が良い。
		④昨年度の進路研修旅行の中止や、新型コロナウイルスの影響によって最終学年であるがクラブ活動・生徒会活動も制限されたことに対する、生徒の心理面でのケアに留意する。	・学年を中心に学校全体で生徒の支援が出来たか。	④	B	クラブ活動についてはそれぞれのところで区切りを付けられるような対応ができた。欠席が多い生徒への対応は早めに組織的にできたのではないかと思われる。	感染症拡大等、現在の状況が次年度以降もどうなるのか分からない中で、それぞれの行事のあり方など早めに検討していく必要がある。欠席数が多い生徒が増えてきており、個々の状況の検討や対応の仕方は、生徒支援委員会を中心に煮詰めていく必要がある。

教科	中期目標	評価項目（重点目標）	評価の観点	項目	自己評価	成果と課題（最終評価）	向上策・改善策
国語	(1) (2) (4) (5)	①論理的思考力を高めるとともに、自らの考えを的確に表現し、他者の意見を精確に捉えられる力を育てる。	・目標達成に資する適切な教材を設定することができたか。 ・授業に関わる情報交換をしつつ、教員同士が互いの授業を参観するなどして、授業力向上を図れたか。	①	B	評論を読み、論理的な文章の構成を学ぶことができた。また、自分の意見を論理的に伝える力を養うために小論文を書く時間を設けることはできたが、その小論文をさらによいものにしていくためにどうしたらよいかということについては、課題が残る。	教員による評価だけでなく、生徒同士の相互評価を取り入れることによって、より他者を意識した文章作りを行うことができると考える。授業公開週間だけにとどまらず、教員同士が授業見学しやすい雰囲気作りに心がけ、互いに研鑽していくとともに、実践報告などを行う機会を設ける。
		②生徒と教員、また生徒同士が活発にコミュニケーションをとれる時間を設け、生徒自身が主体的に問題に取り組み、その解決策を考えるとともに、我がこととして捉える姿勢を作る。	・考査に論述問題を入れることで、入試を見据えた論述力養成の効果が表れたか。 ・漢字や古文単語などの小テストを通じて、語彙力の定着を図ることができたか。	②	B	小論文指導や、国語表現の授業において新聞への投稿などを通じて、生徒自身が主体的に考え、問題意識をもって物事を考える習慣がついてきた。今後はディスカッションやプレゼンテーションなどを取り入れた授業を行いたい。	研修や授業実践報告会などの研修に参加し、よりよい授業についての研究を深める。また、教科の中でもお互いの実践について交流を深め、よりよい方法を確立していく。
		③探究的活動を取り入れた授業展開について、引き続き研究する。	・「助動詞かるた競技」「短歌大会」など、生徒が能動的に授業に参加する場面を増やすことができたか。 ・小論文、レポート作成等を定期的に取り入れ、各自の思考を書いてまとめる力の向上が図れたか。	③	B	コロナウイルス感染症対策から、グループワークなどの対話的な活動を多く行うことはできなかったが、生徒同士、考えを共有する機会を設けることができた。 今年度も生徒の作品を廊下に展示、投票をしたり、批評し合ったりすることができた。今後は、より完成度の高い作品にするために、批評を生かした活動を行いたい。	小論文や詩、ポップを作るといった活動を行う際には、生徒同士による批評を行い、よりよい作品に仕上げる活動を取り入れたい。また、ICT機器が導入された際には、他者の意見を共有したり、自分の意見を発表することが容易になると思われる。授業内で、他者の意見を聞き、考えを深めたり、推敲するなどの活動ができるよう、ICT機器の研究をしていく。
地歴公民	(1) (3) (5) (6)	①現代社会、政治経済など公民の授業で、主権者教育を通して広く地域や社会に目を向けさせる。	・学年と連携して、外部団体(選管）の協力や助力を得て、主権者教育を行うことができたか。	①	B	・コロナ感染症の感染拡大状況から、外部からは情報を得るにとどまった。限られた状況下において、公民の授業が中心であったが、歴史的・地理的な側面からもアプローチを工夫して公民としてのあり方や主権の行使について考えさせることができた。	・コロナ感染症の動向を見つつ、外部団体との協力体制を整えていきたい。
		②マルチカルチュアリズムの観点から、世界と日本の歴史・地理を学ぶ中で、他文化を理解し尊重していく姿勢を身につけさせる。	・提示された資料に対する考察や定期考査などをとおして知識の定着と理解が図れたか。	②	A	・ICT機器をフルに活用して、最新のニュースに関連した動画や画像を取り入れた授業展開をすることにより、より柔軟で多様な思考・考察を行わせることができ、考査でもその効果を確認できた。	・世界や日本の歴史・地理を学ぶ中で、より適切で鮮度のいいタイムリーなニュースや話題を提供できるよう研究を重ねていく。
		③指導要領の改訂をにらみ、生徒が主体的に学ぶ探究的活動を取り入れた授業展開について研究する。	・生徒が主体的・対話的に行う探究的活動を、授業に取り入れることができたか。	③	B	・授業再開後は、カリキュラムの遅れを取り戻すべく努力しつつ、同時に探究学習的な展開を場面に応じて盛り込むことができた。	・より効果的に生徒が主体的に学ぶ探究活動の場面の設定について模索していく。
		④コロナウイルス感染拡大にともなう休業において生徒の不利益にならぬようICT機器を使いフォローする。	・ICT機器を用い、課題や授業動画の配信を行い、生徒の自学自習を支援することができたか。	④	A	・前半においては、限られた機材を最大限有効に活用して課題や授業動画の配信を行った。授業再開後は、休業中のフォローも含めてより活発にICT機器を活用することができた。	・コロナ感染症の動向を見つつ、今後もリモート授業が必要となった場合を想定して準備を進める。
数学	(1) (2) (5)	①計算力を中心に、教科の基礎学力の定着と、応用力の充実を目指す。IT機器の利用を促進し視覚に訴えることで、生徒の理解力を深める。	・論理的な思考の手順を、解説や板書、電子黒板等で的確に説明することができたか。	①	B	・IT機器の利用を積極的に行い、視覚に訴える授業を行うことができた。また新型コロナウイルス感染拡大防止のための休校中も、授業動画を配信することができた。休校によるカリキュラムの遅れを取り戻すことを優先したため、基礎学力の定着ができたかどうかは疑問が残る。	・IT機器の利用は今後も積極的に取り入れていきたい。動画配信の技術や動画内容の向上にも積極的に取り組んで行きたい。
		②論理的な思考力・判断力とともに、「言語」による表現・伝達ができる能力を育成する。	・授業、提出課題、考査等で生徒自らの論理的思考を明確に発言、記述することができたか。	②	B	・新型コロナウイルス感染拡大防止のための休校明けしばらくは発問による発言やグループ学習等は少し控えめな状況になったが、その後できる範囲で実践をすることができた。	・今年度の共通テストの出題を見ても論理的な思考力をつけることが喫緊の課題であると思われるので、数学の力をつけることはもとより読解力がつくような授業内容や考査問題を作成していきたい。
理科	(1) (2) (6)	①自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につける。	・自然の事物・現象についての理解を深められたか。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につけられたか。	①	B	動画・スライド等を使用し、自然現象に対する理解を深めることができた。しかし、コロナ禍による休校のため、科目によっては実験があまりできなかった。	観察・実験は科学的探究によって最も重要な活動であるため、今後もユニバーサルデザイン等を取り入れつつ、充実させていきたい。
		②観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	・観察、実験などを行い、科学的に探究する力が身についたか。	②	B	・コロナ禍の影響により予定していた実験を科目によっては削減を余儀なくされた。一方で補習では、個人ごとに実験を実施し、手技や事象の理解を促すことができた。 ・不足していた時間を確保するため、自作動画を利用する等、実験の効率化を図り、短時間で実施した。	補習における個人ごとの実験や、効率化のための動画作成については、一定の成果が得られた。来年度以降も継続して実施していきたい。
		③自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	・自然の事物・現象に主体的に関わることができたか。科学的に探究しようとする態度が身についたか。	③	B	・アクティブラーニング等、生徒を主体とした学習を取り入れ、生徒の学びあいなどの活動を通して、科学的に探究しようとする態度を育成することができた。	今後もアクティブラーニングやユニバーサルデザイン等、教員間で情報を共有しつつ、研究・実施を図りたい。
		④ICT機器を活用し、休業中の生徒への学習支援を行い、科学への理解度を深める。	・ICTの活用を通して自然の事物や現象について理解が深められたか。	④	B	・休業中の動画配信については、教科内においても協働しつつ、数多くの動画を配信することができ、授業進度も例年通りであった。また、電子黒板などの活用により、事物事象の解説や、実験手順の説明など効果的に伝えることができた。	ICT機器の活用・研究をさらに推進し、情報共有の基、授業で還元していきたい。

教科	中期目標	評価項目（重点目標）	評価の観点	項目	自己評価	成果と課題（最終評価）	向上策・改善策
外国語	(1) (2) (5)	①英語の基礎となる単語、熟語、構文、文法などを定着させる。	①生徒の実態や目標に応じて適切な教材や学習方法を示し、学力定着の工夫ができたか。	①	B	・定期的な小テストや課題に加え、学年ごとに学習教材も工夫し生徒の能力に応じた指導を行っている。	・学力の個人差に応じた学習計画の設定を行っていき、新型コロナウイルス等の休校等の事態にも対応出来るような工夫を図る。
		②グループ学習やプレゼンテーション活動を通して、生徒自身の意見を英語で発信する能力を育成する。	②生徒に意見発信をさせる機会や課題を与え、適切な助言や指導ができたか。	②	B	・ALTの授業を中心に、意見発信を生徒に求める機会を十分に確保した。特にライティング・スピーキング指導においては、各学年とも意見を考え、友人との意見交換も行い、英語で形にする活動を行った。	・言語不安の大きい生徒にも積極的な支援を行っていき、授業や学習の満足度を高める。例えば、意見発信活動の際に、生徒に馴染みのある既習文法の活用も同時に行うような工夫を図る。
		③生徒の能動的な活動を通じて、4技能とともに思考力やコミュニケーション能力を育成する。	③知識定着に加え、言語活動を多く取り入れ、英語の運用能力を総合的に育成することができたか。	③	B	・ペアワークやグループワークも取り入れた、プレゼンテーション、ドリル学習、ライティング練習、リーディング練習、ALTとの授業などの多様な活動を通じて4技能を育てる指導ができた。	・言語活動のバリエーションを増やし、英語運用能力と同時に、深い思考力を育成するような授業計画を練っていく。例えば、課外活動や他教科の学習も絡めた教科横断型の授業も行っていく。
芸術	(2) (3) (6)	①芸術の授業を通して、生徒が自ら目標を設定し、意欲的に自己表現する姿勢を育成する。	・生徒が様々な芸術文化に興味関心を持ち、意欲的に取り組める教材設定ができたか。	①	B	生徒の興味関心を引き出す教材設定は概ね達成できた。「生徒個々が自らが目標設定」という点についてはまだ工夫の余地があるため、さら意欲の向上に向け検討したい。	今後は生徒個々が自ら意欲的に取り組めるよう、教材の設定や提示の仕方等を研究したい。
		②国内外の様々な芸術文化に関心を持ち、それぞれの芸術文化を尊重する姿勢を育成する。	・生徒個々の能力を見極め、意欲的に課題に取り組むための生徒支援ができたか。	②	A	授業観察を通して、自らの課題を持って取り組んでいる生徒に対して授業支援を充分行うことができた。	生徒が課題に興味関心を持ち積極的な取り組みができるよう、さらなる観察を行う。
		③新型コロナウイルス感染症対策として、対面授業ができない場合や単元の入れ替えが必要な場合、適切な教材選びと共に、ICTを活用した授業展開を推進する。	・ICTを活用した授業展開の研究は充分できたか。	③	B	臨時休校中の課題は配布プリント等の準備・配布ともに適切に行うことができた。 対面授業になってからは、感染対策を施した上で感染リスクを考慮しながら単元設定や授業展開ができた。 ICTの活用に関しては、休校中も含めて動画配信やオンライン授業の活用までには至らなかった。	感染症対策だけでなく、今後の授業にもICTの活用は不可欠と考える。芸術の授業でどんな活用ができるか研究をしたい。 ただ、一斉休校を経て改めて芸術の授業は対面でなければ成り立たないという思いに至ったのも事実である。芸術の特性を生かすことのできるICT活用を目指していきたい。
保健体育	(2) (3)	①運動に関する知識を深め、技能・体力の向上を図り、運動の楽しさや喜びを味わい、仲間と協力する姿勢を身につける。また、生涯スポーツにつながる資質や能力を育成する。	・適切な服装、時間やルール等を遵守させられたか。集団行動の意義や、自分及び仲間の安全、仲間との協力や運動の楽しさを実感させられたか。	①	B	スポーツを通じて集団で一つのことに取り組む姿勢や仲間意識を植え付けながら授業展開ができた。また、種目の特性や経験値を総合的に判断し、講座ごと段階を踏んだ指導ができた。	時間に遅れる者も若干見られたところや特に特曜日でジャージ忘れの生徒が目立ったところが次年度に向けての反省点として改善していきたい。
		②健康の保持増進のための知識や実践力を身につけ、実生活において活用できる考えを育て、明るく豊かな活力のある生活を営む態度を育てる。	・安全管理は適切であったか。 ・運動量は確保できたか。 ・身近な話題に触れることで、興味関心を引き出し、日常生活及び今後の実践につながるような内容を提示できたか。	②	B	運動量の確保は各担当とも意識しながら授業展開ができた。 保健の授業では電子黒板の利用やグループワーク、ジグソー法の取り入れなど単調な授業にならない工夫ができた。	アクティブラーニングの取り入れに向けさらに研究や授業見学を取り入れ、授業力向上に努めたい。
家庭	(2) (5) (6)	①急速に変化する社会の状況に目を向け、多様化する家族・家庭や生活様式について理解し、自らの生き方をデザインする姿勢を育成する。	・社会の出来事に興味を持たせ、現状を理解し、自分の生活と関連づけて考えさせることができたか。	①	B	生活設計や職業と働き方、結婚と家族等、自らの生き方について考える学習テーマを題材として扱い、社会の状況について理解を深める学習を取り入れた。衣生活、食生活分野では、実習を通して将来の生活や実践につなげる授業を行った。	社会の急速な変化に目を向け、生徒自らが考え、実践できる授業計画を進める。
		②成年年齢の18歳引き下げにより、社会がより身近なものとなることから、適切な意思決定や消費行動について自ら考え行動できる態度を養う。	・消費をめぐる様々なトラブルに直面した場合、社会的な手段も利用しながら、それを解決する方法を身につけさせるための適切な指導、助言ができたか。	②	B	消費生活分野については、教科書と併せて消費者庁学習教材「社会への扉」を活用し、成年年齢引き下げに伴う消費者トラブル等について理解を深めた。	消費生活出前講座の活用については、年度末の実施に向けて準備を進めている。
		③新型コロナウイルス感染症対策により、生活様式が変化する中、「持続可能な社会」の実現に向けて、家庭生活や地域社会へ関心をもち、自ら課題を発見し、解決していくための知識や実践力を身につける。	・学習で得た知識・技術を活用し、生活を巡る様々な問題を意識させ、課題解決に向けた学習活動を充実させることができたか。 ・ICT機器を活用した教材作成を通して、学習環境を整備することができたか。	③	A	今後の新型コロナウィルス感染拡大時に対応するため、ICT機器を活用した教材作成や生活課題の解決につなげる学習指導について整備を進めた。調理実習では、新型コロナウィルス感染予防を踏まえ、1講座を半分に分割し、実習を行った。少人数での学習活動により、学習効果が上がるなどのメリットもあった。	作成した教材の効果的な活用方法や授業形態について引き続き研究を深めたい。また、今後想定される生徒の学習環境の変化にも柔軟に対応できるよう学習指導法を整備したい。
情報	(5) (6)	①情報モラルについての基礎基本を定着させる。	・基礎的な知識理解ができたか。	①	B	生徒らはこのコロナ禍での時間数の不足もあり、当初は入力等に戸惑いもあったが、現在ではワードエクセルの実習は例年並みに完了した。残り3学期でパワーポイントを学習し、2年生の総合的な探究の時間などに対応してゆきたい。入学試験で実際に学校のPC教室と大学側とのオンライン面接をZoomで実施した。	パソコン教室内のPC用に数台で良いのでWebカメラを用意すると今後の対応がスムーズかも知れない。
		②ワード、エクセル、パワーポイントの基礎的操作を習得させる。	・基礎的な技能の習得ができたか。	②	B		
		③配信動画授業、ZoomやLINEなどを導入したSHR、LHR、授業の実践とその研究を行う。	・学校より配信された動画、Web授業等を家庭で受信でき、有効活用できたか。	③	B		